

TAKE FREE

ふくしま
イノベビと



ふくしまイノベビとが暮らす浜通り

浜通りは福島県の東側、太平洋に面したエリアです。
北部は相馬市・南相馬市・双葉郡を中心とした相双(そうそう)エリア、
南部はいわき市を中心としたいわきエリアからなります。

【ACCESS】

電車でアクセス

イノベビとに会えるまで、東京からは最短約2時間半!!

●相双エリア …… 東京からは仙台経由が便利です!
「仙台」まで東北新幹線「はやぶさ」などで(約1時間30分)。
その後JR常磐線に乗り換え、「相馬」なら約1時間で到着します。

●いわきエリア …… 東京から乗り換えなしで2時間半!
「いわき」までJR常磐線「特急ひたち」で約2時間半で到着します。

※JR常磐線は、現在富岡駅～浪江駅間が運休区間となっていますが、2020年3月までの再開を目指して工事が進められています。(列車代行バス有)
<https://www.jreast.co.jp/pdf/saikajoukyou.pdf>

クルマでアクセス

●相双エリア
・三郷IC - (常磐自動車道:約2時間15分) - 広野IC
・川口JCT - (東北自動車道:約2時間50分) - 福島西IC - (国道115号線:約1時間) - 相馬
・仙台 - (東北自動車道-仙台南部道路-仙台東部道路-常磐自動車道:約57分) - 相馬

●いわきエリア
・三郷IC - (常磐自動車道:約1時間45分) - いわき湯本IC
・三郷IC - (常磐自動車道:約2時間) - いわき中央IC



「ふくしまイノベビと」をもっと知ろう!

WEB限定記事

紙面では伝えられない、イノベビと10名のストーリーをWEB上で公開中!



Facebookページ

取材時のオフショットや浜通りのさまざまな耳寄り情報をお届けします!



(公財)福島イノベーション・コスト構想推進機構

構想の概要や、各プロジェクトの進捗やイベント情報をお知らせします。



浜通りは太平洋に面しているので夏は涼しく、冬は比較的温暖で雪も少ないです!

【お問い合わせ】

編集発行 / 「ふくしまイノベビと」事務局 (一般社団法人あすびと福島)
〒975-0023 福島県南相馬市原町区泉字前向15
TEL: 0244-26-5623 FAX: 0244-26-5624
MAIL: info@asubito.or.jp

※掲載内容は2019年2月時点のものです。(2019年2月12日発行)

「ふくしまイノベビと」は一般社団法人あすびと福島を事務局として推進する、
(公財)福島イノベーション・コスト構想推進機構「交流人口拡大提案事業」の請負事業です。

公益財団法人 福島イノベーション・コスト構想推進機構
〒960-8043 福島県福島市中町1-19 中町ビル6階
TEL: 024-581-6893
MAIL: kouryuu-sokushin@fipo.or.jp





浜通りの 今と未来を 支える男たち

「イノベびと」とは？

太平洋に面した福島県沿岸部の地域「浜通り」。未曾有の震災からまもなく8年が経過しようとしています。浜通りには現在もなお、原発事故の影響で、震災前と同じ暮らしを取り戻すことができない場所があります。

しかし、時間の経過とともに新しい動きが始まっています。そのひとつが「福島イノベーション・コースト構想」。これは、浜通りの地域等で新しい産業基盤の構築を目指す一大プロジェクト。私たちはその構想が目指す本質を「新しい価値を創ろう」というイノベティブな意欲に満ちた人々があふれていることと捉え、そこに取り組む人々を「イノベびと」とよぶことにしました。どんなに壮大なプロジェクトでも、それを支えているのは、そこに暮らし、なりわいとして日々向き合っている人たち。その人たちの日々の奮闘なしには成り立ち得ないのですから。遠くそびえたつ大きな建物も、その人たちの顔が思い浮かんだら、少しだけ身近に感じられるかもしれません。

このストーリーブックは、福島の浜通りを支える「イノベびと」たちの想いを知る入門書です。次はぎつと「イノベびと」に会いに行きたくなるはず。

地元高校生×イノベびと

このストーリーブックでは、浜通りに住む高校生と一緒に、働く人たちの魅力を掘り下げていきます。それは、現場で動くひとりひとりの想いによってコトが動いている、そんな実感を若い世代にこそ持つてもらいたかったから。そして今まで知らなかった「かっこいい大人の生きざま」に触れることで、もつと自分たちが生まれ育った福島・浜通りを好きになってほしい。そんな願いを込め、8人の高校生たちと取材を重ねました。現場で汗をかく男たちの熱量に触れ、彼女たちは何を思ったでしょうか。

彼女たちの視線を通した10人の「イノベびと」たちの魅力が、皆さんにも届きますように。



福島イノベーション・コースト構想とは

福島イノベーション・コースト構想は、東日本大震災および原子力災害によって失われた浜通り地域等の産業を回復するため、当該地域の新たな産業基盤の構築を目指す国家プロジェクトです。廃炉、ロボット、エネルギー、農林水産等の分野におけるプロジェクトの具体化を進めるとともに、産業集積や人材育成、交流人口の拡大等に取り組んでいます。





この地から日本のエネルギー、世界の未来を創る。

INOBE BITO × ENERGY

エンジニア

國谷 亮介さん
KUNIIYA RYOSUKE

海沿いの地に突如現われる「工場萌え」な風景。IGCCと呼ばれる石炭ガス化複合発電を含む石炭を主とした火力発電を行う勿来発電所だ。

「石炭は他の化石燃料と比較して採掘可能な埋蔵量が多く、安価。石炭火力こそが果たす役割があると思っています」と力強い口調で語る國谷亮介さん(26歳)。この勿来発電所にある世界唯一の空気吹きIGCC(10号機)の運転ができるエンジニアだ。石炭をガス化させることでガスと蒸気のタービンを二段階で回転させ、効率の良い発電が実現。CO2排出量も低減できる次世代の石炭火力発電だ。

実証試験機だった10号機の保守・運転の経験を買われ、2020年運転開始予定の世界最新鋭の「福島復興IGCC」でも活躍が期待される國谷さん。「ここが日本の戦後復興を支えたように、IGCCが新興国の経済成長を大きく支えるインフラとしても期待されています」と、毎朝家のカーテン越しに見ていた「当たり前」の場所に立ち、ここから世界を変えていくことに胸が高鳴る。「いわきは自分にとって大事な地元。世界に目を向けて、いわき・福島から日本のエネルギーを支えたい」静かな物言いの奥に、使命感が垣間見えた。



常磐共同火力株式会社 勿来発電所
〒974-8223 福島県いわき市佐糠町大島20
☎0246-77-0211

常磐地区の低品位炭を有効活用して、安定した電力の供給を行うことを目的として1955年に設立された石炭火力発電所。戦後、日本の高度経済成長を支える主要電源になったほか現在に至るまで石炭使用に関わる先端の技術開発を行う。



高校生記者

福島県立相馬高校1年
長階 志穂子さん
NAGAHASHI SHIHOKO

國谷さんは市内にある福島高専在籍時に震災を経験し、復興やインフラ整備に関心を持つきっかけになったといいます。「大学院で学んだ化学の知識を生かしながら、自分の地元で、世界的な規模のインフラに関わることができることを誇りに思う」と、笑顔のぞかせる國谷さん。プライベートではサッカーの審判のライセンスを保有し、休日は試合の審判をすることもあるという意外な一面も。どんなに巨大なインフラでも、國谷さんのような想いを持った「人」の手によって支えられていることにはと気づかれました。





MY DREAM
いわきを
東北一の都府にする。



株式会社いわきスポーツクラブ
いわきFC

〒972-8322福島県いわき市常磐上湯長谷町釜ノ前1-1
☎0246-72-2511

いわき市をホームとする社会人サッカーチーム。「アンダーアーマー」の日本総代理店である株式会社ドームが復興支援の一環として建設した物流倉庫から構想がスタートし、既成概念を打ち破る新しい発想でチームを運営。いわき市の活性化にも貢献している。

サッカーの力で、いわきを、
子どもたちを元気に。

小高い丘の先に見える巨大な倉庫。アンダーアーマー日本総代理店となっている株式会社ドームの物流倉庫だ。隣には日本初となる商業施設複合型クラブハウス「いわきFCパーク」が建設されており、いわきFCの活動拠点としてのスポーツファシリティをはじめ、レストラン、アウトレットショップ、トレーニングジムなどが入居し、多くの地域住民、観光客で賑わいを見せている。「サッカーというスポーツが持つ経済的な価値を引き出して、いわきを元気にすることが自分の使命」と語るのは、チームでCOO兼マーケティング本部長を務める岩清水銀士朗さん(30歳)。フロントスタッフとして、いわきを東北一の都市にすることを目標に、立ち上げ時からビジネスサイドで支えてきた。

そんな中で岩清水さんが力を入れるのは、次世代を担う子どもたち。原発事故の影響で屋外活動が制限されたことや、環境の変化に伴う食習慣の乱れなどから、常態化している子どもの肥満を何とか解消したいと、地元の子どもたちに運動教室を無料で開講している。サッカーを一切教えないというその教室は、テクニックや勝ち負けではなく、身体を動かすことの喜びや、それによる集中力や積極性が育っていくことを重視した。

「これは未来への投資。スポーツを自分に自信をつける手段として、挑戦すること、一生懸命続けることの大切さを感じてもらえたら」という岩清水さん。子どもたちからは、「確実に変化の手ごたえを感じ始める日々だ」という。いわきの未来を担い、グラウンドで元気に走り回る子どもたちに、岩清水さんは今日も目を細める。

INOBE BITO ×
SPORTS

いわきFC COO

岩清水 銀士朗さん

IWASHIMIZU GINJIRO



高校生記者

福島県立相馬高校1年
門馬 彩華さん
MONMA AYAKA

子どもたちから溢れる笑顔から、彼らにとってここが大切な場所になり、そんな愛着が地域への誇りにもつながっていくんだろうなと感じました。チームの顔は選手ですが、陰から支える岩清水さんはまさに「緑の下の力持ち」。優しいまなざしの先には、サッカーを通して広がるいわきの未来が見えた気がします。そんな岩清水さんのいわき生活も4年目。多くの人と接しアクティブに動く日々から一転して、休日には意外にも、お気に入りの場所でひとり自分と向き合いリセットする時間を持つようになっているそうです。

高校生記者

福島県立相馬高校1年
森 綾音さん
MORI AYANE



広い施設内、ロボットの大きさやその機能、何もかもが私たちにとっては新しく、見るもの全てに衝撃を受けました。架空のものを現実のように映し出すVRの技術に驚き、思わずはしゃぐ私たちを横目に「あくまで研究機関ですから、テーマパークではないですよ」と笑う鈴木さん。難しい専門用語を限界まで噛み砕いて説明いただきました。「生まれ育った福島で、今自分ができることがここにあることは、やりがいにつながります」こう鈴木さんは語気を強め、その奥には静かながらも熱い決意を感じました。

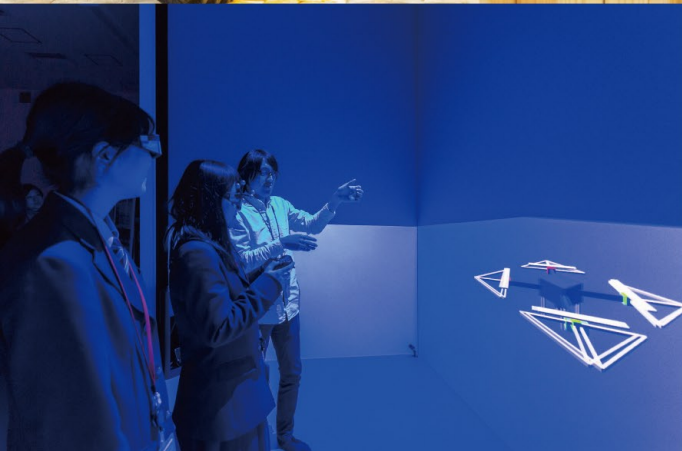
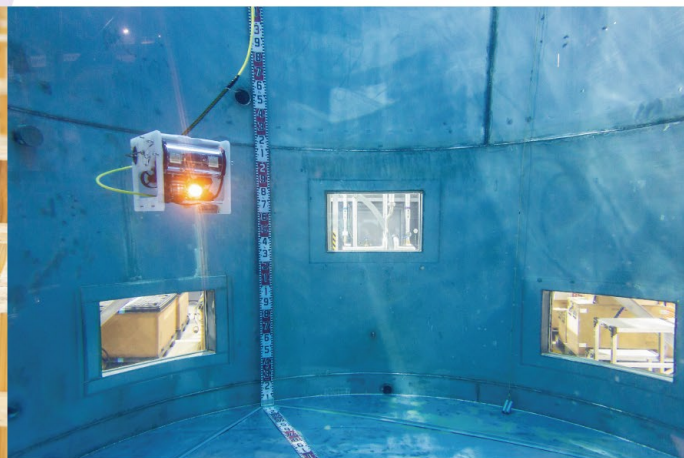


INOBE BITO × DECOMMISSIONING

エンジニア

鈴木 健太さん
SUZUKI KENTA

「心の準備」が技術を凌ぐ。 廃炉を支える技術の裏に。



MY DREAM
廃炉に貢献して
安心して暮らす
福島を取り戻す。



国立研究開発法人日本原子力研究開発機構 楳葉遠隔技術開発センター

〒979-0513 福島県双葉郡楳葉町大字山田岡字仲丸1-22
☎0240-26-1040

福島第一原子力発電所の廃炉推進のために遠隔操作機器（ロボット等）の開発実証施設として整備された施設。廃炉作業の作業計画検討や作業者訓練等に活用可能なVR（バーチャルリアリティ）システム、ロボットシミュレータ等の設備を備える。廃炉に限らず広く一般の利用も可能。



この楳葉遠隔技術開発センターで、鈴木健太さん（28歳）はロボットによるコミュニケーションのプログラム開発を行っている。福島第一原子力発電所の事故は、過酷な状況の中で人間が太刀打ちできない限界を世の中に知らしめた。このセンターの試験棟は、実寸で原子炉の格納容器の止水作業や、ロボットの開発試験・訓練ができる装置など、様々な設備を備えた巨大なモックアップ施設だ。「どんなにすごいロボットがあっても、いきなりそれを動かせる人間はいません。それをシミュレーションするためのシステムがあれば、いつでも誰でも繰り返し訓練ができ（心の準備）もできます」と鈴木さんは言う。

ここでは鈴木さんの出身校でもあるいわき市の福島高専が全国に呼びかけ、文部科学省などが主催する「廃炉創造ロボコン」も行われている。鈴木さんの礎になっているプログラミングの技術は高専時代から培った。高専生たちの先入観のない柔軟な発想が刺激になり、40年を要すると言われる廃炉を支える担い手としても、後輩たちに期待を寄せる。

「地元福島出身として、自分の技術開発成果で廃炉に貢献したい」と意欲を燃やす日々だ。ロボットを駆使することを前提にしても、そこには人の技術と、血の通った見えない想いがあることを忘れてはいけない。



なみえ創成小学校・中学校でALTとして英語を教えるカイパー・ジョシュア・ジェームズさん(23歳)は、町で唯一の外国人だ。村上春樹などの日本文学に親しみ、日本を深く知りたいと思う中、日本で英語教師になることを志した。金沢、名古屋での留学経験を経て2018年夏から浪江町でALTとして活躍している。「原発事故があったことは知っていたので、限られた情報の中で、放射能は大丈夫なのかと両親が不安がりました。でも実際にこの町は聞いていた情報よりもとても良い場所です」と微笑む。

校内での餅つき行事があったこの日、自宅の水道の凍結防止策を、町の人から丁寧に教わっていた。フロリダ出身のジョシュア先生にとって慣れない寒さ、本では知っていても実際に初めて触れる風習、戸惑うこともあるが毎日が発見の連続。今では、子どもたちだけでなく、警察官に英語での職務質問の仕方をレクチャーしたり、町の人が企画する英会話教室やウクレレ教室に招かれたりするほどの人気者だ。それも「そんなことありません」という日本語表現も自然にこぼれるような、日本人らしい奥ゆかしさを備えたジョシュア先生の人柄なのだろう。

「町の人たちと互いの考えや価値観を分かち合いたいです」と自然体で向き合う先生の姿勢が、再び新しい歴史を刻むこの町の、小さくても確かな一歩になることは間違いない。



町で唯一の外国人として。

ALT(外国語指導助手)

カイパー・ジョシュア・ジェームズさん
KUIPER JOSHUA JAMES



高校生記者

福島県立相馬高校1年
山本 風佳さん
YAMAMOTO FUUKA

緊張する私たちを、穏やかに優しい笑顔でほぐしてくれたジョシュア先生。日本の事について話す姿はとても楽しそう、日本が本当に好きなんだと感じました。「福島、そして浪江の皆さんは、自分のためにいつも優しく接してくれています。だからここは私にとって『いい場所』であって『いばしょ(居場所)』でもあります」とユーモアも忘れません。今後は、子どもたちが英語を使いこなして、たくさん外国人と交流が出来るようになってほしいと話すジョシュア先生。先生の優しい笑顔が、町の子どもたちが世界に羽ばたくきっかけになったらと願っています。



浪江町立なみえ創成小学校・中学校

〒979-1513 福島県双葉郡浪江町磯世橋字来福寺西73
☎0240-23-5336

2017年3月末に帰還困難区域を除いて避難指示が解除された浪江町に2018年4月に開校した。2018年12月末日現在、町民登録されている小中学生約1,200人の1%に満たないものの、10人の児童・生徒が毎日元気に登校する。





笑顔の向こうに
見える純白の希望。

INOBE BITO ×
AGRICULTURE

花卉農家

杉下 博澄さん
SUGISHITA HIROZUMI



原発事故によって一時は全村避難が指示され、2年前に一部を除き避難指示が解除された葛尾村。かつては稲作をはじめ葉タバコ、養蚕、畜産などが盛んだったが、高齢化や担い手不足は震災前からの課題だった。

「胡蝶蘭には「幸せを運んでくる」という花言葉があるんです」そう微笑むのは共同代表の杉下博澄さん(38歳)。衰退する農業、原発事故からの復興、村にとって新しい価値をもたらす新しい農業とは…。

模索した末に風評に左右されにくく収益性の高い胡蝶蘭栽培に辿り着いた。一つ一つのつぼみが花開いた時、積み重ねた

努力が実を結ぶことを実感する。「贈り物にと遠方から足を運んで下さる方の存在や、花の出来に対するお褒めの言葉は励みになります」と杉下さんの表情が緩む。

原発事故には、理不尽な想いや悔しさもあった。だからこそこの葛尾村を、農業の経験のない人でも「挑戦したくなる農業」、「頑張ったら報われる農業」を実践できる場所にしたという。

杉下さんたちの育てた胡蝶蘭のブランド名は「ホープホワイト」。杉下さんのまつすぐな視線の先には、希望が見えた。



かつらお胡蝶合同会社

〒979-1602 福島県双葉郡葛尾村大字落合字菅ノ又148-2
☎0240-37-4380

葛尾村の農業再生に向け、新たな価値創出に向け意欲を燃やす3農家・1企業が集まり、2018年1月より胡蝶蘭の栽培を開始。現在、県内だけでなく大田市場など首都圏へも出荷され、品質が高く評価されている。



高校生記者

福島県立原町高校2年
吉村 侑果さん
YOSHIMURA YUUKA

趣味は食べ歩きという杉下さんですが、胡蝶蘭のことが気がかりで、休日でもほとんど温室に足を運んでしまうのだそう。「手先は器用ですが生き方は不器用なもので、今は胡蝶蘭に100%全力投球になってしまっ」と照れ臭そうに笑います。ここでは新たに雇用も生まれ、年齢差はあっても同じ目標に取り組むスタッフの方々は杉下さんにとって大切な仲間。声をかけ合って創り上げられる和気あいとした雰囲気には、心も温まりました。現地では、杉下さん自らがギフトラッピングをしたホープホワイトを産直価格で購入することもできます。是非足を運んで杉下さんの笑顔に触れ、葛尾村の希望を沢山の方に向けて頂きたいです。



INOBE BITO ×
ROBOT

エンジニア

早川 達也さん
HAYAKAWA TATSUYA

課題先進地域・南相馬
だからこそそのロボットづくり。



高校生記者

福島県立原町高校2年
若盛 霞さん
WAKAMORI KASUMI

「何を聞いてもすぐに答えてくれる、頼りになる存在です」と、後輩社員の方からの早川さんのお人柄を耳にし、短時間接触しただけの私も激しく同意してしまいました。始めこそ「南相馬にロボット?」と半信半疑だった私たちですが、早川さんの絶えない笑顔と真摯な仕事ぶりから、それを身近に感じることができた気がします。私たち地元の高校生も、ボランティアという形で何か協力できないかと、思わずワクワクしてしまう取材でした。

菊池製作所でエンジニアとして活躍している早川達也さん(32歳)。同社のグループ会社であるイノビス社が開発・販売する、装着すると腰への負荷を軽減させる「マッスルスーツ」の製造のほか、介護関係のロボット開発に取り組んでいる。

使い手の課題を理解したもののづくりをしたいという早川さんは、机上で考えるだけではなく、病院や高齢者の介護施設、地域の健康教室にまで足を運び、介護職員や入院患者からニーズを拾い上げる日々だ。取材の前日も、開発中のセンサーのデータを拾うために遅くまで計測に取り組んだというが、そこに徒労感はなく、笑顔とともに「実際に町のみなさんの笑顔に触れ合っていると、一緒に作っている感覚があって、強いやりがいを感じています」と、力強い言葉がこぼれる。

健康が長く続くよう手助けをできるロボットを、この南相馬から生み出すのが早川さんの夢だ。原発事故により急激に高齢化に直面した南相馬市では、介護の現場でも深刻な人手不足が続く。そんな課題を先取りしてしまっただけでこそ、テクノロジーの力で解決できることが沢山あるのではないかと。地域の課題に真摯に向き合い、新しい価値づくりに挑戦する早川さん。「達成感はまだありません。道の途中だから」と謙虚さをにじませるが、そこには長く続く道のりをしっかりと見据え、地元を盛り上げようとする強い意志と覚悟を感じずにはいられなかった。

菊池製作所でエンジニアとして活躍している早川達也さん(32歳)。同社のグループ会社であるイノビス社が開発・販売する、装着すると腰への負荷を軽減させる「マッスルスーツ」の製造のほか、介護関係のロボット開発に取り組んでいる。

使い手の課題を理解したもののづくりをしたいという早川さんは、机上で考えるだけではなく、病院や高齢者の介護施設、地域の健康教室にまで足を運び、介護職員や入院患者からニーズを拾い上げる日々だ。取材の前日も、開発中のセンサーのデータを拾うために遅くまで計測に取り組んだというが、そこに徒労感はなく、笑顔とともに「実際に町のみなさんの笑顔に触れ合っていると、一緒に作っている感覚があって、強いやりがいを感じています」と、力強い言葉がこぼれる。

健康が長く続くよう手助けをできるロボットを、この南相馬から生み出すのが早川さんの夢だ。原発事故により急激に高齢化に直面した南相馬市では、介護の現場でも深刻な人手不足が続く。そんな課題を先取りしてしまっただけでこそ、テクノロジーの力で解決できることが沢山あるのではないかと。地域の課題に真摯に向き合い、新しい価値づくりに挑戦する早川さん。「達成感はまだありません。道の途中だから」と謙虚さをにじませるが、そこには長く続く道のりをしっかりと見据え、地元を盛り上げようとする強い意志と覚悟を感じずにはいられなかった。



株式会社菊池製作所
南相馬工場

〒979-2162 福島県南相馬市小高区飯崎字南原65-1
☎0244-32-0005

飯館村に主力工場を置き、開発・試作・量産を全て社内で行う一括・一貫体制の機械メーカー。2016年から稼働している南相馬工場では「マッスルスーツ」などの先端ロボットの受託製造や、ドローンなどの研究開発にも着手している。

MY DREAM
南相馬の
ロボット開発





INOBE BITO ×
AGRICULTURE

収穫・選果グループマネージャー

成川 凌さん
NARIKAWA RYO



70人と創り上げる
挑戦の連続。

6万本もの苗木がつるを伸ばす広大な温室の横で、フォークリフトのハンドルを握り、縦横無尽に動き回るのは成川凌さん(49歳)。農業の経験は一切なく、復興に力を貸すという大義もなかったが、「新規事業の創業」という挑戦にただ魅力を感じ、3年前に神奈川県から飛び込んだ。

選果・出荷の責任者である成川さんは「ひたすら算数の世界ですよ」と苦笑いする。栽培は1か月後に結果が出るが、収穫や選果はその日その日が勝負。夏場は40℃にもなる過酷な環境で、スタッフが苦勞して収穫したトマトをロスなく出荷する。プレッシャーを抱えつつも、計画を現状と照らし合わせながら、改善を繰り返す日々だ。

「能力で勝負する職人気質ではないから、皆と一緒に創り上げていくことが性に合っているのかな」という成川さん。70名近いスタッフをまとめる苦勞はあるが、10〜80代までが活き活きと活躍する姿をそばで見られるのは、他には代えがたいやりがいだ。

縁の下の力持ちの存在と、ここで働く人たちの笑顔が、たわわなトマトになって実を結ぶ。



南相馬復興アグリ株式会社
(南相馬トマト菜園)

〒975-0041 福島県南相馬市原町区
下太田字川内迫310-6
☎0244-26-6747

2015年11月に完成した1.5ヘクタールの温室内で、通年でのトマト栽培を実現。年間約660トンを出荷する。農業経営人材を育成して地域に輩出・連携することにより、地域農業の復興・成長に貢献することを目指す。



MY DREAM
平
何事もない
平穏な日々を



高校生記者

福島県立相馬高校1年
山本 風佳さん
YAMAMOTO FUUKA

自分には真似できないことへの敬意や、日々の成長ぶりなど、スタッフの皆さんの具体的なエピソードを、笑顔のぞかせながら嬉しそうに話す成川さん。同じ職場の仲間に気を配り、常に俯瞰して現場を見る目を持った人だなと感じました。飄々と話す中でも、「仕事は遊びではないから頑張っても報われないこともあるけれど『続ける』ということは無駄にはならないよ」と、真剣な表情で前に進むことの大切さを話してくれました。成川さんの懐深い優しさと温かさに触れ、トマト栽培がとても身近に感じられました。

相馬一の大漁師になる。



暗闇に包まれる深夜2時半の相馬・磯部漁港。灯の灯った船が順番に海を滑り出すように出港する中、若き漁師・土屋鎌さん(16歳)の姿があった。祖父・稔さんの「幸稔丸」に乗る土屋さんは、中学校を卒業後、双子の兄・優さんともに漁師を目指し2年目を迎えた。両親ともに漁師の家系に生まれ、幼い頃から魚が好きで、サッカー選手よりも漁師に憧れたという。漁師だった父を津波で失くしているが、それでも海に対する想いは変わらず、一切の迷いなく漁師の道を選んだ。

朝日が眩しい8時過ぎになると大漁のかごとともに再び港に戻る幸稔丸。ひよいと軽快に甲板を動き回り、水揚げの作業に入る土屋さんだが、船と魚探の操作はまだ祖父に教えてさえもらえない修行中の身だ。「魚を獲るのはもちろん、下積み時代から何年も船で飯炊きしたりしてるから、先回りして準備をしたり、気の利かせ方が上手い人たちが多いんですよ」と先輩漁師たちの凄さを熱っぽく語る。試験操作により出港が制限され、若手が経験を積めないことを憂う声も聞かれるが、土屋さん自身は決してそれを悲観はしていない。

自分が一番になる意識を常に持っているのが、ここ相馬で生きる漁師だ。それは土屋さんにとっても同じで、夢は「相馬一の大漁師になること」と迷いなく答える。時に海に落ちそうになることもあるというが、一度も船酔いをしたことがないのは、生粋の漁師の血が流れている紛れもない証。相馬の漁業を支える期待の新星だ。



高校生記者

福島県立相馬高校1年
門馬 彩華さん
MONMA AYAKA

実は土屋さんは私の中学校時代の先輩で、失礼ながらやんちゃなイメージが強かったため、始めは緊張に震えていました(笑)。ところが、真っ直ぐ自分のやりたいこと、志を全うしようとしている姿に触れ、どんどんその魅力に惹きこまれていきました。地方の一次産業が衰退し、近年若い人材が減りつつある中、土屋さんのようにぶれない想いを持った若い世代が活躍していくのは、相馬の誇りだと思えました。



福島県の漁業

原発事故の影響により操業自粛を余儀なくされている福島県の漁業。現在は、県によって5万3千件を超えるモニタリングの結果から安全が確認されている魚種を対象に、小規模な操業と販売により出荷先での評価を調査する「試験操業」が週2回程度実施されている。「幸稔丸」が出港する磯部漁港には加工施設と直売所が隣接されており、検査を経た新鮮な魚を直売所で買い求めることも可能。





高校生記者

福島県立相馬高校1年
菊地 夏未さん
KIKUCHI NATSUMI

新地町出身の渡部さんは、一度は故郷を離れていましたが、壊滅的な被害を受けた故郷が元気になってほしいという思いから、2017年に再び新地町に戻ったそうです。現在は趣味の釣りも堪能しつつ、「安心感を与えてくれるのは、やはり地元」だと実感しているそう。私は、地元でありながら、今までこの基地の様子を報道でしか見たことがありませんでした。実際に現場を見て、渡部さんからも直接お話を伺ったことによって、相双地区の復興が進んでいること、そしてそれが実は身近なものだと感じることができました。

INOBE BITO × ENERGY

荷役管理グループ

渡部 和宏さん
WATANABE KAZUHIRO

巨大インフラを支えるともじび。



「東京ドーム四つがすっぽり収まる大きさ、なんていわれてもピンときませんよね」と笑うのは、ここでLNGを積んだ外航船、内航船、タンクローリー車等の受入業務を担う渡部和宏さん(29歳)だ。この相馬LNG基地が位置する「4号ふ頭」は震災後に整備され、隣接地には発電所の建設も進められており、復興への起爆剤として期待されている。

一定時に到着したローリーの運転手と息の合ったアイコンタクトを交わしながら天然ガスを積み込む渡部さん。液化された天然ガスの温度はマイナス162℃。粉雪のように結晶が付着した配管の連結、バルブの開閉や数値の確認、一つ一つの作業が事故故につながりかねないため、一瞬の気の緩みも許されない。慎重な作業の後、安全に事が進む様子を真剣な表情で確認しながら、60分後、積み込みが完了する。バルブを閉めると渡部さんから安堵の表情がこぼれ、岩手県を目指すローリー車を送り出した。今、操業が始まったばかりなので、すべてがやりがいなんです」という言葉とともに。

ローリーへの積み込み作業中に、配管の余剰ガスを燃焼し、ポットフレアスタックから炎が上がるのを目にすることができる。巨大なインフラは、まるで人が介在しないかのように圧倒的な存在感を私たちに与えるが、フレアスタックの炎が灯る時、それを支える渡部さんたちの姿が重なるだろう。



MY DREAM
地元復興の手助け



石油資源開発株式会社 相馬事業所 相馬LNG基地

〒979-2611 福島県相馬郡新地町駒ヶ嶺字今神159-2
☎0244-26-9846

相馬港において、国内最大級のLNG(液化天然ガス)タンクを有し、海外からのLNGの受入れや、貯蔵・出荷を行う一大拠点。東北エリアならびに新潟・仙台間ガスパイプラインを通じて日本海側と太平洋側への天然ガスの安定供給に寄与している。



「ここにこんな施設ができるなんて、当時は夢のまた夢でした」感慨深げにそう繰り返すのは、福島県庁企画調整部の吉田和史さん（38歳）。立ち上げ段階から「福島イノベーション・コースト構想」に携わってきた。原発事故の影響で打撃を受けた浜通り地域等に、今までの技術を活かしながら、エネルギーやロボット、廃炉などに関する新たな産業を生み出す壮大な構想は「福島復興の切り札」とされる。

「福島をマイナスなイメージだけでは絶対に終わらせない。原発事故をバネに新しい福島を創るんです」と吉田さんは語気を強め、この構想が特定の研究機関や企業だけにその恩恵がもたらされるものであつてはならないという。「街の飲食店や小売店にまでこの構想による波及効果が実感できれば、地域の一人一人が一人称で語れるようになる」そう信じて、数々の難所を乗り越えながら、少しずつ周りを巻き込んでいった。

プロジェクトに現場で携わっていたからこそ、吉田さんの目線の先には、常にここ福島で暮らす一人一人の顔が見えている。「大人たちが本気で汗をかくところなるんだ、って私自身も驚いています」そう笑う吉田さんからは、行政マンという肩書を超えた個人としての福島愛が溢れていた。

大人の本気が集結した、 福島復興の切り札。



高校生記者

福島県立相馬高校1年
沖沢 優希子さん
OKISAWA YUKIKO

企業と地域や地元の人を結びつけ、地域を発展させていきたいと願う吉田さんの熱意に触れ、私は地域にどんな一歩を踏み出すことが出来るか。そう考えさせられる時間でした。夢を書こうとする吉田さんはどこか楽しそう、悩んだ末に言葉の最後にビックリマークを2つ追加。そんなチャーミングな一面からも、行政の仕事に携わる方のイメージがよい意味で覆されました。プライベートで県庁の仲間と組んでいるバンド「ままだおるず」の演奏も是非一度見てみたいです！



福島ロボットテストフィールド

〒975-0036 福島県南相馬市原町区萱浜赤沼61

福島イノベーション・コースト構想に基づき、物流、インフラ点検、大規模災害などに活用が期待される陸・海・空のフィールドロボットを主な対象として実際の使用環境を再現しながら実証実験、性能評価、操縦訓練を行うことができる世界に類を見ない一大研究開発拠点。2018年度以降、順次開所を予定している。

